

R 4 年度 荻谷小学校 学校評価のまとめ

12月上旬に実施した「教育活動診断票（アンケート調査）」へのご協力、ありがとうございました。その結果をもとに、1月17日に「学校関係者評価委員会」を開催し、5名の委員の方とアンケートの分析を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

- 対象 保護者全員（回収率95.4%） 児童 4年生以上（140名）
 ○分析 4段階評価のうち、よくあてはまる（そう思う）とややあてはまる（だいたいそう思う）を合わせたものを肯定的評価ととらえ、それをもとに行っています。
 ※数値に付けた矢印↗又は↘=前年比5ポイント以上、↑↓=10ポイント以上の変化を表しています。

<本年度の重点努力目標について>

①「かしこい子」（知）の育成に向けて

（・「学ぶ」教室への意識改革と子ども同士が学び合い高め合える教室コミュニティの創造 ・体験活動を重視した学習展開 ・子どもの学習スタイルの確立）

・授業は分かりやすい	（児：91.9% → 保：78.4% →）
・進んで意見や感想を発表	（児：59.1% →）
・ペアトーク	（児：77.0% →）
・話をしっかり聞く	（児：94.2% → 保：79.5% →）
・家庭での学習（児童㊟自主的）	（児：70.8% ↘ 保：68.4% ↘）
・考えや振り返りを書く	（児：75.5% ↘）
・自主的な学び	（児：70.8% ↘ 保：80.6% →）
・本を読むことが好き	（児：75.7% → 保：50.6% →）
・㊟パソコン・タブレットの使用	（児：96.4% ↗ 保：84.9% ↑）

今年度の大きな特徴は、タブレットが導入されたことです。今回の結果から、学校でも家庭においてもタブレットを積極的に活用できていると考えます。本格的な導入初年度ではありますが、教員の積極的に活用しようとする姿勢と児童の操作能力の向上で活用分野は拡大してきています。

タブレットを活用することで、「ペアトーク」「考えや振り返りを書く」については、従来のようにテキストを基本としたグループワークに比べ、タブレットで撮影した写真や動画が使用でき、児童の興味・関心を引き立てる効果が期待できます。また、「自主学习」や「家庭学習」では、家庭への持ち運びが可能になったことで、気になった言葉やニュースなどを自主的に調べられ、調べ学習がより充実すると考えます。今後、タブレットを有効に活用することは、今年度下降傾向にある3項目の向上にもつながっていくと考えます。

②「あかるい子」（徳）の育成に向けて

（・体験活動を充実し、人のために働ける荻谷小文化の創造 ・道徳教育での自己内対話の重視 ・折れない心の教育 ・道徳教育、キャリア教育の充実）

・あいさつや返事	（児：89.1% → 保：88.8% →）
・約束やきまりを守る	（児：91.3% → 保：81.0% →）
・進んでそうじに取り組む	（児：82.6% →）
・身の回りの整理整頓	（児：70.3% → 保：44.6% ↗）
・自分にはよいところがある	（児：76.8% ↓）
・あきらめずにやり抜く	（児：83.1% → 保：75.1% →）
・人の気持ちを考えて行動	（児：87.1% →）
・学級の友達と協力	（児：92.1% →）
・下級生に声かけや手助け	（児：81.3% → 保：94.4% →）

「きまりよく」の校訓のもと、全体としては落ち着いた生活が送れています。子どもや保護者の評価は、昨年度ほとんどの項目で大きく上昇したことやどの項目も高い評価であったこともあり、昨年度並みの結果でした。例年、児童と保護者の間で大きな開きのある整理整頓は、昨年度よりも上昇したものの未だ低い状況であり、両者の基準に隔たりがあるように感じられます。学校での掃除活動への取組強化や教室環境の整備をすることで、児童の整理整頓された環境に対する基準を高めていきたいと考えます。

今年度下降した「自分にはよいところがある」の項目は、昨年度大きく上昇した項目であり、元に戻ってしまいました。今後は、自己分析がしっかりとできていなかったり、他人と比べる傾向があったりする児童も一定数いますので自己分析の機会と、友だちの良いところを見つける機会を増やしていきたいと考えています。

③「げんきな子」(体)の育成に向けて

(・「すこやかタイム」を生かしたバランスのとれた体力づくり
・学校保健委員会の充実と食育の推進 ・防災・安全教育の推進)

・㊟早寝・早起き・朝ごはん	(児：78.7% → 保：81.3% →)
・すこやかタイムに進んで参加	(児：76.1% → 保：76.1% →)
・けがや病気に気をつけて生活	(児：78.3% ↘)

「すこやかタイムに進んで参加」は、昨年度、児童・保護者ともに大きく上昇した項目でした。コロナ禍前までの状況とまできませんが、継続して実施してきたことで昨年度向上した結果を維持できました。「けがや病気に気をつけて生活」については、やや低下していますが、依然高い状態であり、継続していきたいと考えます。また、これまで力を入れて取り組んできた食育については、日常の啓蒙活動に加え講師を招聘して講演会を実施しました。タブレット(電子メディア)活用のルールに関する指導についても、工夫した企画で児童の意識を高めたり、ご家庭へは便りを通して呼びかけを継続したりしました。今後も子どもたちが健康的な生活習慣を形成できるよう家庭と連携して支えていきたいと考えます。

④安心・安全で生活しやすい環境づくりに向けて

(・「心の居場所」づくりといじめの未然防止・早期発見 ・個別の支援)

・相談できる友達	(児：84.2% → 保：73.2% →)
・先生に相談	(児：66.4% ↗ 保：65.1% →)
・家の人に相談	(児：72.3% ↘ 保：82.2% →)
・先生と子どものことを相談	(保：79.9% →)
・通学班で安全に登下校	(児：91.4% ↗)

重大ないじめ事案はありませんでした。チームでの対応を心がけ、担任を中心にその都度、話を丁寧に聞き、解決を図ってきました。個別の支援を必要とする児童に対しても同様で、関係する教員で情報交換を密にし、チームで対応していくことを心がけました。また、必要に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育アドバイザー、担当医等、専門機関の方々とも連絡をとって進めてきました。今後も、学期に1度の生活アンケートと教育相談だけでなく、普段から児童理解と保護者との連携に努め、適切な支援を続けたいと考えます。

安全面についても大きな事案はありませんでした。毎月の施設設備点検や登下校や放課での児童たちの姿を今後も注視し、事故の無いよう見守っていきます。

⑤学校・家庭・地域の連携・協働に向けて

(・通信、HP等の充実 ・地域の教育資源(ひと・こと・もの)を活用した「特色ある」教育活動の展開)

・地域の活動や行事への参加	(児：70.8% ↓ 保：70.8% →)
・教育活動等の情報発信	(保：80.0% →)

地域での活動や行事への参加が下降している結果となりました。感染症防止対策ということで、まだまだ制限がある状況なので仕方ない面はありますが、ここ数年来の状況で、地域での活動や行事離れがより顕著にならないよう注視していく必要があると考えます。

本校では、全校でのサツマイモ栽培、5年生の稲作、3年生のイチゴなど、地域の方々からご指導いただいて教育活動を進めています。今年度は、運動会でのコミュニティ種目実施、交通立番活動、読み聞かせ活動も制限なく実施できました。こういった活動を通して、地域コミュニティとの関わりを保っていきたくと考えます。

また、今年度の大きな変化は、授業参観ができたことと家庭教育学級(親子活動)を全学年親子で実施できたことです。これらの活動を毎年継続することは、同学年の親同士や親子のつながりの深まりに貢献すると思わりますので今後も継続していきたいと考えています。